



じゅからうじゅうずびょうぶ
綴プロジェクト作品 樹花鳥獸図屏風
伊藤若冲筆 寄贈先・原本所蔵：静岡県立美術館

公開情報
二〇一九年二月七日(木)～三月十九日(火)まで綴プロジェクト作品「樹花鳥獸図屏風」が旧三井家下鴨別邸「京都」にて公開されます。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品38作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。

右隻中央に白象。左隻には鳳凰。色鮮やかな動物づくし、鳥づくしのまことにめでたい屏風である。伊藤若冲の「樹花鳥獸図屏風」は、霊獣や異国の動植物と、身近な動物や鳥が仲良く集う理想の世界。画面を二センチ四方の枞目で塗り分ける「枞目描き」という手法で、この世のものではない楽園が描かれている。作品の由来は不明だが、日本画でよく使われる縁起のよいモチーフもちりばめられ、婚礼などめでたい席で使われたのだろうと考えられる。晩年まで絵師の道を究め続けた若冲、その独自の技でこのうえなく幸せな楽園を創りだした。

原本は静岡県立美術館が所蔵、二〇二〇年に綴プロジェクトが寄贈した高精細複製品は、出張授業や美術館内外の展示で活用されています。屏風を畳にしつらえて間近に見ることで、一枞一枞の精緻さを確かめることもできます。ガラス越しの展示とは違う屏風ならではの鑑賞の機会が、多くの方を若冲の思いへ近づけています。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

日本の美を継承していくために
綴プロジェクト作品(高精細複製品)
「樹花鳥獸図屏風」 伊藤若冲筆

Vol.13

綴TSUZURI
文化財未来継承プロジェクト

Canon